

2019年度
決算IR資料
2020年5月29日



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

内容

I. 2019年度 連結決算概況	
1. 収支の状況	P3
2. 財務の状況	P14
3. 資源セグメントの状況	P18
II. 2020年度 連結業績予想（第11次中期3ヵ年計画の3年目）	
1. 2020年度業績予想の考え方	P19
2. 2019年度比較	P20
3. 上期・下期比較	P23
4. 一株当たり情報	P25
5. 株主還元の考え方	P25
6. 感応度	P26
III. 第11次中期3ヵ年計画フォローアップ	P27
IV. その他の論点	P28

I. 2019年度 連結決算概況

1. 収支の状況

(1)総括

●おもに下記①～③の理由により、営業利益は142億円の赤字となりました。

①製錬S E Gの特殊要因： 在庫評価損の計上（▲67億円）

②製錬S E Gの特殊要因： 非鉄スラグ製品処理費用計上（▲22億円→2018年度からの累積▲31億円）

③資源S E Gの特殊要因： 休山前対応のエンデバー鉱山営業損失（▲39億円）

その結果、経常利益は▲144億円、C B Hエンデバー及びラスプ鉱山の減損▲32億円や、繰延税金資産の取崩もあり、最終利益は184億円の赤字となりました。

●2020/2/10のQ 3公表時通期予想から最終利益が24億円下振れましたが、主に製錬S E Gの市況悪化による在庫評価損の拡大によるものです。なお、2020/3/23業績予想下方修正時の通期予想からは、10億円上振れで着地しました。

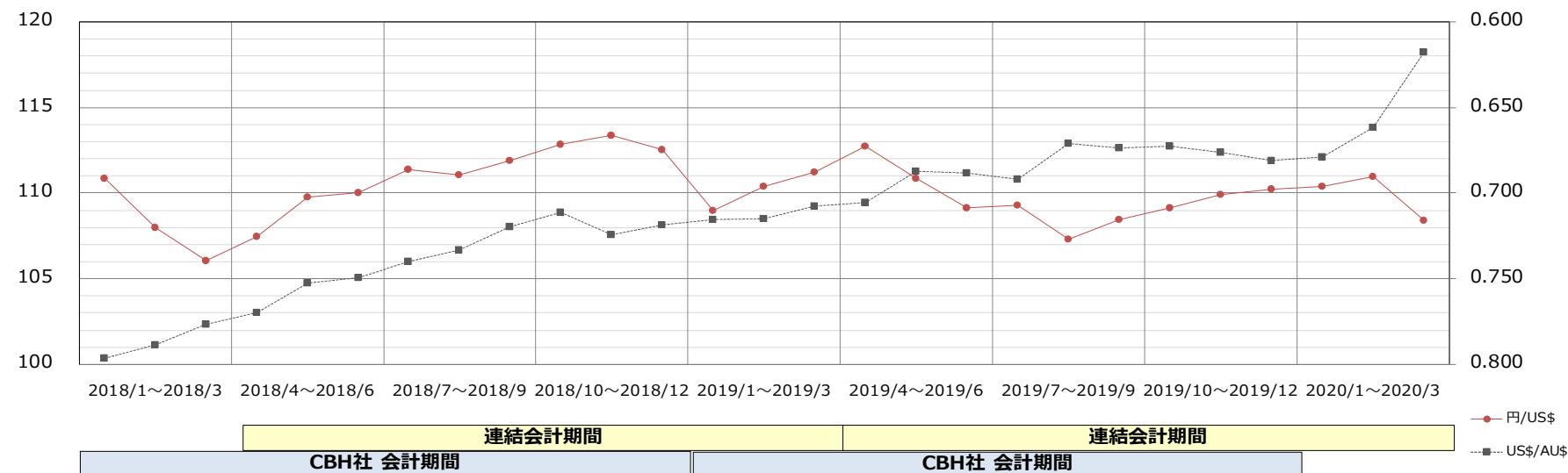
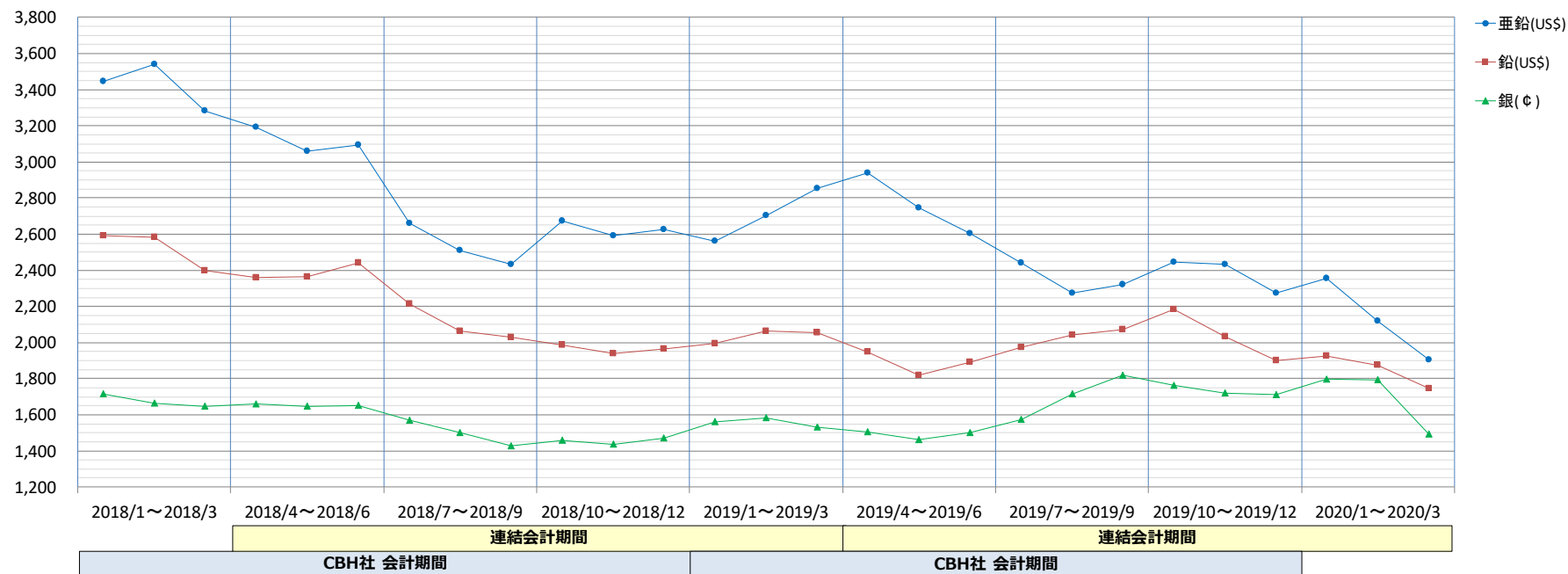
●前期比では、製錬S E Gが特殊要因（在庫評価損・非鉄スラグ等）で約70億円悪化したこともあり59億円減益したことに加え、資源S E Gで約79億円減益したことから、営業利益は147億円の減益となりました。さらに繰延税金資産の取崩により最終利益では悪化幅が広がり、158億円の減益となりました。

(単位:億円)

	2018年度実績	2019年度収支				
		2019/5/9 公表	2019/8/9 業績予想修正①	2020/2/10 業績予想修正②	2020/3/23 業績予想修正③	2020/5/29公表 実績
連結売上高	1,176	1,060	990	1,000	970	974
連結営業利益	5.3	46.0	▲8.0	▲108.0	▲149.0	▲142.2
連結経常利益	9.7	46.0	▲7.0	▲107.0	▲150.0	▲144.4
連結純利益	▲25.5	30.0	▲15.0	▲160.0	▲194.0	▲183.6

1. 収支の状況

(2) 市況推移



1. 収支の状況

(3)第4Qの状況(市況・生産量)

			第3Q累計 (A)	第4Q (B)	2019年度実績 (A+B)
市況	亜鉛(米\$/t)		2,497	2,128	2,405
	鉛(米\$/t)		1,985	1,847	1,950
	銀(米\$/toz)		16.4	16.9	16.5
	円/米\$		108.7	108.9	108.7
	米\$/豪\$		0.699	0.683	0.695
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)		69.1	24.6	93.7
	鉛製品(千t)		71.2	17.4	88.5
	電気銀(t)		227	75	301
資源セグメント CBH社関連	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	229	74	303
		ラスプ	504	147	651
		計	733	221	954
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	18.7	6.3	24.9
		ラスプ	39.4	8.2	47.6
		計	58.1	14.4	72.5
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	8.1	2.3	10.4
		ラスプ	20.8	4.4	25.2
		計	28.9	6.8	35.7

1. 収支の状況

(4)第4Qの状況(収支)

			第3Q累計 (A)	第4Q (B)	2019年度実績 (A+B)
売上高(億円)			747	227	974
営業利益(億円)	製錬		▲59.3	▲41.4	▲100.7
		在庫評価損益	▲34.9	▲31.9	▲66.8
		非鉄スラグ	▲19.3	▲2.5	▲21.8
		上記以外 ※1	▲5.2	▲6.9	▲12.1
	資源	▲21.2	▲33.2	▲54.4	
	電子部材	3.5	0.8	4.3	
	環境・リサイクル	6.5	1.1	7.6	
	その他 ※2	4.3	1.4	5.7	
	調整額	▲2.1	▲2.6	▲4.7	
	計	▲68.3	▲73.9	▲142.2	
経常利益(億円)			▲62.8	▲81.6	▲144.4
純利益(億円)			▲109.8	▲73.8	▲183.6
EBITDA(億円)			▲0.7	▲59.7	▲60.4

※1 他に特殊要因がなければ、製錬実力ベースの収益力。当期第3Qまでは、鉛製品の減産影響あり。
年度を通じて原料運搬コストの上昇や硫酸の輸出採算悪化等が影響。

※2 「その他」に係る営業利益には、「土木・建築・プラントエンジニアリング」セグメントに係る営業利益を含む。

1. 収支の状況

(5)2020/2/10公表（第4Qの3か月）比較（市況・生産量）

		2020/2/10公表 第4Q (2020/1月-3月)	2019年度実績 第4Q (2020/1月-3月)	差(実額)	差(%)	
市況	亜鉛(米\$/t)	2,300	2,128	▲172	▲7	
	鉛(米\$/t)	1,900	1,847	▲53	▲3	
	銀(米\$/toz)	17.0	16.9	▲0.1	▲0	
	円/米\$	109.0	108.9	▲0.1	▲0	
	米\$/豪\$(10-12月)	0.683	0.683	0.000	0	
製錬セグメント 主要製品 生産量	亜鉛製品(千t)	25.1	24.6	▲0.6	▲2	
	鉛製品(千t)	17.6	17.4	▲0.2	▲1	
	電気銀(t)	61	75	13	22	
資源セグメント CBH社関連(10-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	74	74	0	0
		ラスプ	147	147	0	0
		計	221	221	0	0
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	6.3	6.3	0.0	0
		ラスプ	8.2	8.2	0.0	0
		計	14.4	14.4	0.0	0
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	2.3	2.3	0.0	0
		ラスプ	4.4	4.4	0.0	0
		計	6.8	6.8	0.0	0

1. 収支の状況

(6)2020/2/10公表（第4Qの3か月）比較（収支）

			2020/2/10公表 第4Q (2020/1月-3月)	2019年度実績 第4Q (2020/1月-3月)	差 (B)-(A)
売上高(億円)			253	227	▲26
営業利益(億円)	製錬		▲8.7	▲41.4	▲32.7
		在庫評価損益	▲4.8	▲31.9	▲27.2
		非鉄スラグ	▲4.0	▲2.5	1.5
		上記以外 ※	0.1	▲6.9	▲7.0
	資源		▲33.8	▲33.2	0.6
	電子部材		1.0	0.8	▲0.2
	環境・リサイクル		2.0	1.1	▲0.9
	その他		0.8	1.4	0.7
	調整額		▲0.9	▲2.6	▲1.7
	計		▲39.7	▲73.9	▲34.2
経常利益(億円)			▲44.2	▲81.6	▲37.4
純利益(億円)			▲50.2	▲73.9	▲23.7
EBITDA(億円)			▲24.5	▲59.7	▲35.2

※ 第4Qの見込みが7億円悪化したのは、在庫評価損と複合的に結びついた諸要因による。

1. 収支の状況

(7)前期比較（市況・生産量）

			2018年度実績	2019年度実績	差(実額)	差(%)
市況	亜鉛(米\$/t)		2,746	2,405	▲340	▲12
	鉛(米\$/t)		2,122	1,950	▲172	▲8
	銀(米\$/toz)		15.4	16.5	1.1	7
	円/米\$		110.9	108.7	▲2.2	▲2
	米\$/豪\$(1-12月)		0.745	0.695	▲0.050	▲7
製錬セグメント 主要製品 生産量	亜鉛製品(千t)		99.2	93.7	▲5.5	▲6
	鉛製品(千t)		86.8	88.5	1.8	2
	電気銀(t)		282	301	19	7
資源セグメント CBH社関連(1-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	646	303	▲342	▲53
		ラスプ	737	651	▲86	▲12
		計	1,383	954	▲429	▲31
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	53.0	24.9	▲28.1	▲53
		ラスプ	60.0	47.6	▲12.4	▲21
		計	113.0	72.5	▲40.5	▲36
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	27.8	10.4	▲17.4	▲62
		ラスプ	32.6	25.2	▲7.4	▲23
		計	60.4	35.7	▲24.7	▲41

1. 収支の状況

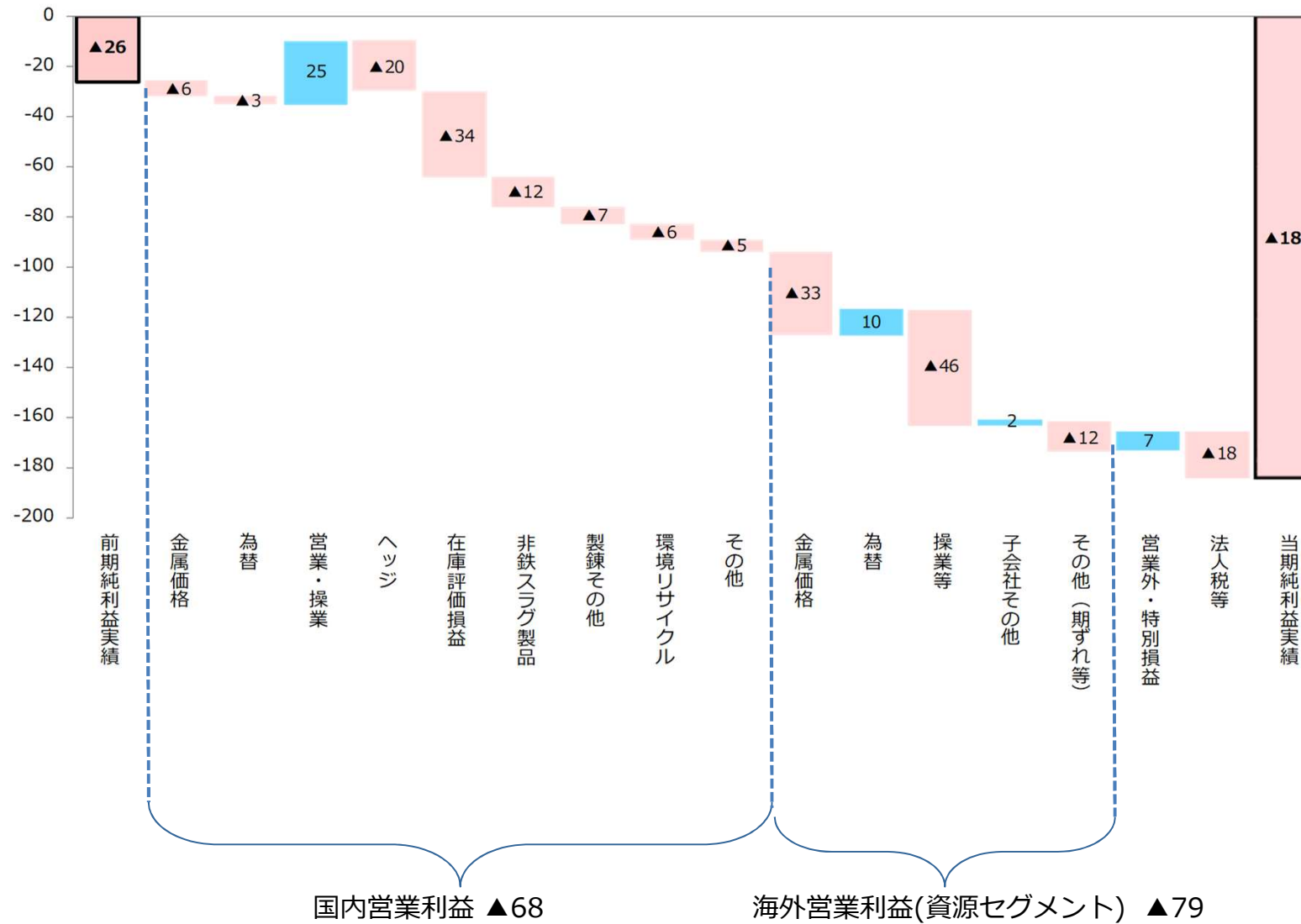
(8)前期比較(収支)

		2018年度実績	2019年度実績	差 (B)-(A)
売上高(億円)		1,176	974	▲202
営業利益(億円)	製錬	▲41.5	▲100.7	▲59.2
	資源	24.9	▲54.4	▲79.3
	電子部材	5.9	4.3	▲1.6
	環境・リサイクル	13.3	7.6	▲5.7
	その他	▲1.4	5.7	7.1
	調整	4.2	▲4.7	▲8.9
	計	5.3	▲142.2	▲147.5
経常利益(億円)		9.7	▲144.4	▲154.1
純利益(億円)		▲25.5	▲183.6	▲158.1
EBITDA(億円)		108.8	▲60.4	▲169.2

1. 収支の状況

(8)前期比較(純利益)

単位：億円



1. 収支の状況

(9)四半期単位比較(市況・生産量)

2019年度		Q1実	Q2実	Q3実	Q4実	累計	
市況	亜鉛(米\$/t)	2,763	2,345	2,384	2,128	2,405	
	鉛(米\$/t)	1,886	2,029	2,038	1,847	1,950	
	銀(米\$/toz)	14.9	17.0	17.3	16.9	16.5	
	円/米\$	109.9	107.4	108.8	108.9	108.7	
	米\$/豪\$	0.713	0.700	0.677	0.683	0.695	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	21.0	22.2	25.9	24.6	93.7	
	鉛製品(千t)	23.6	23.7	23.8	17.4	88.5	
	電気銀(t)	61	82	83	75	301	
資源セグメント CBH社関連	粗鋅処理量 (千t)	エンデバー	92	79	59	74	303
		ラスプ	167	169	169	147	651
		計	258	248	228	221	954
	亜鉛精鋅生産量 (千dmt)	エンデバー	7.3	5.7	5.6	6.3	24.9
		ラスプ	11.4	13.1	14.9	8.2	47.6
		計	18.7	18.9	20.5	14.4	72.5
	鉛精鋅生産量 (千dmt)	エンデバー	3.1	2.6	2.3	2.3	10.4
		ラスプ	6.0	6.4	8.4	4.4	25.2
		計	9.2	8.9	10.8	6.8	35.7

1. 収支の状況

(10)四半期単位比較(収支)

2019年度		Q1実績	Q2実績	Q3実績	Q4実績	通期実績
売上高(億円)		234	257	256	227	974
営業利益 (億円)	製錬	▲37.9	▲17.2	▲4.2	▲41.4	▲100.7
	資源	▲5.8	▲25.0	9.6	▲33.2	▲54.4
	電子部材	1.2	0.9	1.4	0.8	4.3
	環境・リサイクル	4.0	1.0	1.5	1.1	7.6
	その他	0.1	2.0	2.2	1.4	5.7
	調整	▲1.5	0.6	▲1.3	▲2.6	▲4.7
	計	▲39.9	▲37.7	9.2	▲73.9	▲142.2
経常利益(億円)		▲35.9	▲37.4	10.5	▲81.6	▲144.4
純利益(億円)		▲29.6	▲37.4	▲42.7	▲73.8	▲183.6
EBITDA(億円)		▲23.7	▲20.5	43.4	▲59.7	▲60.4

(ご参考)

2018年度	Q1実績	Q2実績	Q3実績	Q4実績	通期累計
売上高(億円)	307	278	318	273	1,176
営業利益(億円)	16.0	▲37.5	21.1	5.8	5.3
経常利益(億円)	15.7	▲35.0	23.2	5.8	9.7
純利益(億円)	12.2	▲24.8	▲10.2	▲2.8	▲25.5

2. 財務の状況

(1)貸借対照表(資産の部)

単位：億円

		2019年3月末 実績	2020年3月末 実績	差(実額)	
流動資産	現金・預金	102	82	▲20	
	受取手形・売掛金	163	109	▲54	
	たな卸資産	424	350	▲74	
	その他	41	52	12	
	計	730	593	▲137	
固定資産		389	390	1	
	有形固定資産	内CBH社関係	75	78	3
		(豪\$百万表示)	(96)	(102)	(6)
	無形固定資産		119	110	▲9
		内CBH社関係	118	109	▲8
		(豪\$百万表示)	(151)	(143)	(▲8)
	投資その他	64	80	16	
計	572	580	8		
資産 合計		1,302	1,173	▲129	

2. 財務の状況

(1)貸借対照表(負債・純資産の部)

単位：億円

		2019年3月末 実績	2020年3月末 実績	差(実績)	
負債の部	支払手形・買掛金	71	69	▲2	
	有利子負債	CP	110	40	▲70
		短期借入金	118	241	123
		長期借入金	300	283	▲17
		有利子負債計	528	564	36
	その他負債	148	177	29	
	計	747	810	63	
純資産の部	株主資本	資本金	146	146	0
		資本剰余金・自己株式	98	98	0
		利益剰余金	210	17	▲193
		株主資本計	454	261	▲193
	その他包括利益累計額	101	102	1	
	計	555	363	▲192	
負債・純資産 合計		1,302	1,173	▲129	

2. 財務の状況

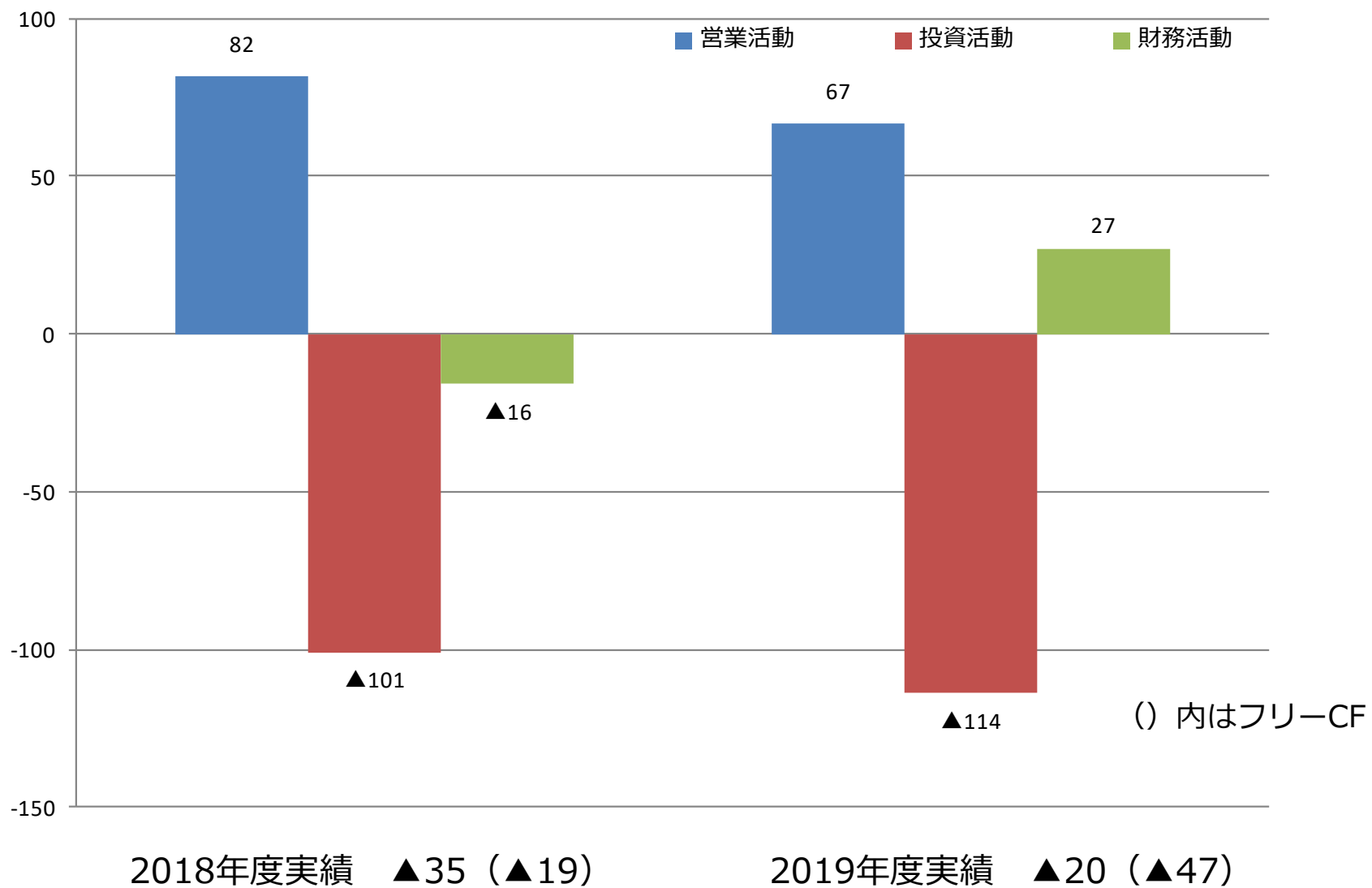
(2)主要財務指標の変化

	2018年度	2019年度	評価
自己資本比率	42.6%	30.9%	大幅悪化
D/Eレシオ	1.0倍	1.6倍	大幅悪化
D/EBITDAレシオ (年換算)	4.9倍	▲9.4倍	大幅悪化
純利益/自己資本(ROE) (年換算)	▲4.3%	▲40.0%	大幅悪化
純利益/売上高	▲2.2%	▲18.8%	大幅悪化
売上高/総資産	0.9回転	0.8回転	若干悪化
総資産/自己資本	2.2倍	2.6倍	レバレッジ拡大

2. 財務の状況

単位：億円

(3) キャッシュ・フローの推移



3. 資源セグメントの状況

前期比▲79.3億円

⇒内、CBH社営業利益▲67.2億円

(内、市況等他律要因▲19.9億円)

①エンデバー鉱山

前期比▲46.4億円(内、市況等他律要因▲9.0億円)

他律要因を除くと▲37.4億円の減益

⇒計画減産による固定費負担増に加えて、2019年末での休山関連費用20億円強計上

②ラスプ鉱山

前期比▲19.4億円(内、市況等他律要因▲10.9億円)

他律要因を除くと▲8.5億円の減益

⇒高品位鉱の採掘遅れによって精鉱生産量当たり費用が改善しなかったことに加え、一部採掘の次年度への繰り越しも影響

③その他（期ずれ等）

前期比▲12.2億円⇒期ずれ調整▲14.9億円等

利益(億円)		2018年度実績	2019年度実績	差(実額)
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	7.7	▲38.7	▲46.4
	ラスプ鉱山	22.3	3.0	▲19.4
	子会社その他	2.4	1.0	▲1.4
	計	32.4	▲34.8	▲67.2
その他（期ずれ等）		▲7.5	▲19.7	▲12.2
資源セグメント利益		24.9	▲54.4	▲79.3

Ⅱ. 2020年度 連結業績予想（第11次中期3ヵ年計画の3年目）

1. 2020年度業績予想の考え方

当社内部の予算（非公表）につきましては、新型コロナウイルスの影響が本格化する前に作成しておりましたが、この度、業績予想を出すに当たり、一定の前提で影響を加味して公表用の数値を作成いたしました。

具体的には、主要製品の販売影響のマイナスは上期に集中し、下期には回復に向かうことを前提に、販売計画を作成しております。市況は足許の状況が続くと予想しております。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響が続く期間やその深度については、過去の経験則が働かないことから、この度の業績予想の前提となる市況・販売量は、従来以上に大きく変動するリスクがあります。

2. 2019年度比較

(1)市況・生産量

		2019年度実績	2020年度前提	差(実額)	差(%)	
市況	亜鉛(米\$/t)	2,405	1,900	▲505	▲21	
	鉛(米\$/t)	1,950	1,700	▲250	▲13	
	銀(米\$/toz)	16.5	15.0	▲1.5	▲9	
	円/米\$	108.7	108.0	▲0.7	▲1	
	米\$/豪\$(1-12月)	0.695	0.620	▲0.075	▲11	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	93.7	88.6	▲5.1	▲5	
	鉛製品(千t)	88.5	93.0	4.5	5	
	電気銀(t)	301	360	59	19	
資源セグメント CBH社関連(1-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー ※	303	-	▲303	-
		ラスプ	651	568	▲83	▲13
		計	954	568	▲385	▲40
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー ※	24.9	-	▲24.9	-
		ラスプ	47.6	48.7	1.1	2
		計	72.5	48.7	▲23.8	▲33
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー ※	10.4	-	▲10.4	-
		ラスプ	25.2	21.3	▲3.9	▲16
		計	35.7	21.3	▲14.4	▲40

※ エンデバー鉱山は2019年末から休山状態へ。

2. 2019年度比較

(2) 収支

		2019年度実績	2020年度予想	差(実額)
売上高(億円)		974	873	▲101
営業利益(億円)	製錬	▲100.7	25.6	126.3
	在庫評価損益	▲66.8	10.8	77.6
	非鉄スラグ	▲21.8	▲3.0	18.8
	上記以外 ※1	▲12.1	17.8	29.9
	資源	▲54.4	▲19.3	35.1
	電子部材	4.3	3.9	▲0.4
	環境・リサイクル	7.6	5.0	▲2.6
	その他	5.7	3.9	▲1.8
	調整額	▲4.7	▲4.5	0.2
	計	▲142.2	14.8	157.0
経常利益(億円)		▲144.4	10.0	154.4
純利益(億円) ※2		▲183.6	32.8	216.4
EBITDA(億円)		▲60.4	65.1	125.5

※1：2019年度の鉛減産影響・硫酸輸出採算悪化影響が消え、2020年度はT/C・R/Cの改善及びリサイクル原料の使用比率アップの影響で、増益へ。

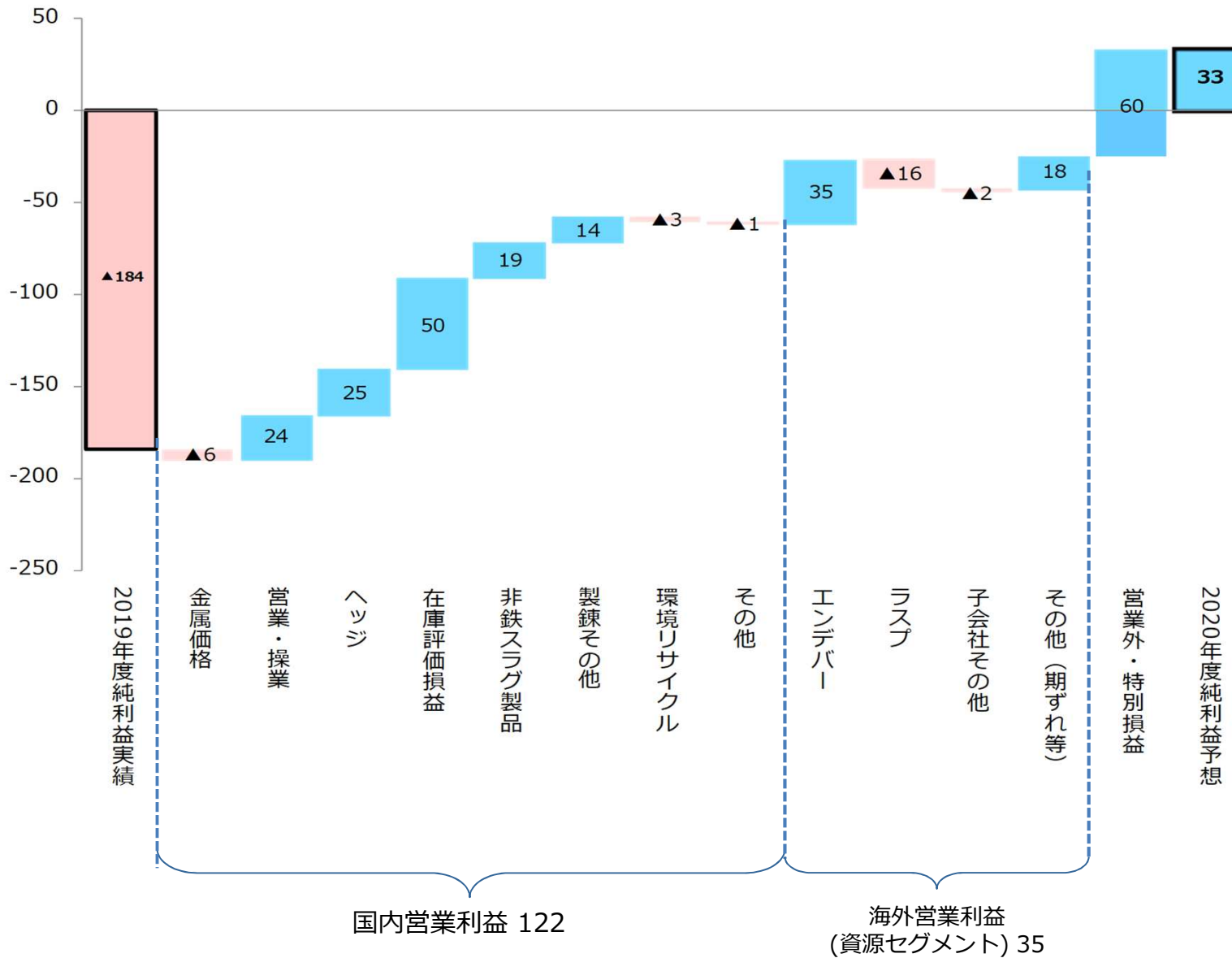
※2：内、特別損益

{	2019年度実績	鉱山減損	▲32億円
	2020年度予想	資産売却益	+30億円

2. 2019年度比較

(2)純利益

単位：億円



3. 上期・下期比較

(1)市況・生産量

		2020年度上期予想	2020年度下期予想	差(実額)	差(%)	
市況	亜鉛(米\$/t)	1,900	1,900	0	0	
	鉛(米\$/t)	1,700	1,700	0	0	
	銀(米\$/toz)	15.0	15.0	0.0	0	
	円/米\$	108.0	108.0	0.0	0	
	米\$/豪\$(1-12月)	0.620	0.620	0.000	0	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	40.6	48.0	7.4	18	
	鉛製品(千t)	49.5	43.5	▲6.0	▲12	
	電気銀(t)	185	175	▲10	▲5	
資源セグメント CBH社関連(1-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	–	–	–	–
		ラスプ	334	235	▲99	▲30
		計	334	235	▲99	▲30
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	–	–	–	–
		ラスプ	27.7	21.0	▲6.6	▲24
		計	27.7	21.0	▲6.6	▲24
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	–	–	–	–
		ラスプ	13.6	7.7	▲5.9	▲43
		計	13.6	7.7	▲5.9	▲43

3. 上期・下期比較

(2)収支

		2020年度上期予想	2020年度下期予想	差(実額)	
売上高(億円)		409	464	55	
営業利益(億円)	製錬		12.5	13.1	0.6
		在庫評価損益	10.3	0.5	▲9.8
		非鉄スラグ	▲1.5	▲1.5	0.0
		上記以外	3.7	14.1	10.4
	資源	▲6.2	▲13.1	▲6.9	
	電子部材	0.4	3.5	3.1	
	環境・リサイクル	1.5	3.5	2.0	
	その他	1.6	2.3	0.7	
	調整額	▲2.3	▲2.2	0.1	
	計	7.6	7.2	▲0.4	
経常利益(億円)		5.6	4.4	▲1.2	
純利益(億円)		32.4	0.4	▲32.0	
EBITDA(億円)		32.8	32.4	▲0.4	

4. 一株当たり情報

	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 予想
EPS (円)	763.94	▲187.82	▲1,352.50	241.56
DPS (円)	125	70	—	N/A
PER (倍)	6.62	—	—	N/A
PBR (倍)	1.10	0.77	0.45	N/A

5. 株主還元の考え方

2019年度につきましては、3月23日に無配となる旨の公表をさせて頂きました。当社が市況影響を大きく受ける収益構造であることから、従来から、業績のブレに関らず（配当性向に関らず）可能な限り安定配当政策を続けてまいりました。

しかしながら、もともと市況悪化で業績悪化が続く中、年度末に勃発した新型コロナウイルスによる外部環境の悪化が追い打ちをかけた形になり、今後の経営安定確保のための自己資本の一定の確保のための対応が必要になった次第であります。

2020年度につきましては、業績予想の考え方を前述させて頂いた通り、予想値そのものの振れが大きい可能性が高いため、配当予想については未定とさせて頂き、2020年度の業績が見えてきたところで、配当予想を公表させて頂きたく存じます。

6.感応度

	変動幅	2019年度試算		2020年度試算		増減	
		連結営業利益影響額	内CBH	連結営業利益影響額	内CBH	連結営業利益影響額	内CBH
亜鉛	\$10 / t	¥56百万	¥40百万 (豪\$500千)	¥41百万	¥27百万 (豪\$400千)	▲¥15百万	▲¥13百万 ▲(豪\$100千)
鉛	\$10 / t	¥33百万	¥28百万 (豪\$360千)	¥21百万	¥16百万 (豪\$250千)	▲¥12百万	▲¥12百万 ▲(豪\$110千)
円/米\$	1円 / 米\$	¥64百万	-	¥82百万	-	+¥18百万	-
米\$/豪\$	0.001	豪\$ 2.8百万	同左	豪\$0.7百万	同左		同左

全体としてエンデバー鉱山休山及びラスプ鉱山減産に伴い影響額減少
円換算は67.0円/豪\$を使用

Ⅲ. 第11次中期3カ年計画フォローアップ

		目標							
		2018年度		2019年度		2020年度			
		中計	実績	中計	実績	中計	予想		
亜鉛(米\$/t)		3,200	2,746	3,200	2,405	3,200	1,900		
鉛(米\$/t)		2,400	2,122	2,400	1,950	2,400	1,700		
銀(米\$/toz)		17.0	15.4	17.0	16.5	17.0	15.0		
円/米\$		105.0	110.9	105.0	108.7	105.0	108.0		
米\$/豪\$		0.780	0.745	0.780	0.695	0.780	0.620		
カソード亜鉛生産量(千t)		101	99	101	94	101	84		
鉛電解製品生産量(千t)		93	87	93	89	93	93		
銀製品生産量(t)		320	282	320	301	320	360		
CBH精鉱生産量 (千dmt)		Zn	エンデバー	60	53	64	25	83	-
			ラスプ	63	60	63	48	61	49
			計	123	113	127	73	145	49
		Pb	エンデバー	29	28	24	10	8	-
			ラスプ	31	33	37	25	30	21
			計	60	60	61	36	38	21
国内投資額(億円)		35	28	33	23	33	22		
CBH(百万豪\$)		84	90	64	66	64	36		

IV. その他の論点

1. 資金繰り状況

(1) コミットメントライン

・2020年3月末に、当社取引銀行参加のシンジケーション方式（M U F Gがエージェント）による160億円のコミットメントライン組成（従来は56億円）。資金調達の安定性を確保。

(2) 資産売却（2020年度計画）

・国内においては、藤岡事業所保有不動産の売却契約済
→キャッシュ9億円、売却益3億円が寄与（第1Q）。

・海外においては、C B H保有の資産売却により売却益28億円が寄与予定（第2Q）。

2. 非鉄スラグ事案

<費用計上累計>	単位：億円
2018年度	9.5
2019年度	21.8
累計	31.3

上記費用以外については、既に確定している一部の個所について、2020年度以降、約10年にわたり36億円の費用計上を予定しており、Q3公表時と全体の状況は変わらず。

3. 資源事業個別案件

- (1) エンデバー鉱山の対応
2019年度末から休山ステータスに入っており、exitにつき検討中。
- (2) 西豪州鉛鉱山新規案件 (Abra)
新型コロナウイルス影響で全体に進捗が遅延中。

4. 新型コロナ禍後の経営戦略

2019年度決算は期末のコロナ影響による市況の更なる悪化で、一段の損失計上を余儀なくされましたが、2020年度はバランスシートの健全性回復を目指すという方針に変わりありません。

具体的には、引き続きの国内製錬在庫圧縮や、含み益のある一部資産売却により、資金繰り及び決算へ寄与させる計画です。一方で、コロナ影響の大きさ次第では、バランスシートの健全性回復スピードに幅が出てくる可能性もあります。

その上で、第3Q公表時の3つの方針、①鉱山ポートフォリオの見直し、②亜鉛製錬の工程見直し、③川下業務の強化（電解鉄事業）については、次期中計に向け着実に進めてまいります。